

2026 年度 大阪公立大学大学院経済学研究科博士前期課程

専門科目 「出題の意図」

①政治経済学

- [1] 政治経済学（マルクス経済学）で用いられる「資本」概念について、基本的理解ができているかを問う。
- [2] 資本主義経済システムに特有な労働力の商品化という現象について、基本的理解ができているかを問う。
- [3] 近年、マルクスの経済思想が再評価される大きな背景ともなっている環境危機について、政治経済学やマルクス経済学の基本概念や問題関心にもとづいて説明することができるかを問う。

②ミクロ経済学

問題[1]

- (1) 標準的な効用最大化問題を、2財のケースについて、与えられた予算の下で解けるかを問う。
- (2) 収入最大化問題を解けるかを問う。
- (3) 与えられた予算の代わりに最大化された収入を用いるときに、標準的な効用最大化問題を解けるかを問う。
- (4) 一部の財に対する超過需要があるケースにおいて、最適な生産点と最適な消費点がどのように決定されているかを示す図について、正しく作図できるかを問う。
- (5) 財に対する超過需要を価格の関数として導出できるかを問う。
- (6) 超過需要がゼロになるときの相対価格を求められるかを問う。
- (7) 相対価格の関数としての効用のグラフを正しく描けるかを問う。特に $p < 1$ で減少関数、 $p = 1$ で極小値をとり、 $p > 1$ で増加関数となるという性質を正しくとらえているかを問う。
- (8) 相対価格が、超過需要がゼロになる水準から離れるとき、どちらの方向に離れても効用が上がるという性質を指摘できているかを問う。

問題[2]

本問題は、公共財の供給に関する意思決定プロセスをゲーム理論で分析させることを通じ、分析能力を評価するために設計されている。各設問は、基礎的な概念の理解から、より応用的な分析能力までを段階的に検証することを目的とする。

- (1) 社会全体の観点から望ましい状態が何かを、費用便益分析という客観的基準を用いて評価する能力を問う。
- (2) 与えられたルールの下でプレイヤー達が直面する戦略的状况を把握し、それを利得表として定式化するモデル化能力、および、ゲーム理論における基本的な均衡概念である純粋戦略ナッシュ均衡を導出する分析能力を問う。
- (3) 特定の戦略組がナッシュ均衡となるために各プレイヤーの利得が満たすべき条件を、一般的なパラメーターを用いて代数的に導出する能力、ひいてはナッシュ均衡の定義を理解しているかを問う。
- (4) 時間を通じた戦略的状况を、展開形ゲーム（ゲームの木）として適切に表現する能力を問う。さらに、展開形ゲームにおける戦略を把握し、部分ゲーム完全均衡を特定する分析能力、そして、ナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡の概念の差異を理解しているかを問う。

③マクロ経済学

問題 [1] 新古典派の所得分配理論に関する問題

(a)–(d) は定義の理解と基本的な経済数学の知識を問う。

(e), (f) は利潤最大化問題に関する理解を問う。

(g)–(i) は利潤最大化問題の解に基づいて比較静学を行う問題。図と数式を用いて現象を説明する能力を問う。

問題 [2] ケインジアンタイプのマクロ経済モデルに関する問題

(a), (b) は IS 方程式の構成要素に関する理解を問う。

(c) は中央銀行の金利政策に関する問題。貨幣市場において名目利子率が果たしている役割についての理解を問う。

(d) はフィッシャー方程式に関する理解を問う。

(e) インフレ AD 曲線を描かせる問題。IS-LM/AD-AS モデルに関する理解を問う。

④計量経済学

問題[1]

問 1 は、与えられた 2 つの確率変数 X と Y の結合分布の表に基づいて、 Y の期待値に関する理解を問う。また、期待値の計算方法に沿って、正確に計算することが求められる。

問 2 は、失業率に関する理解を問う。問 1 の結果を活用することが求められる。

問 3 は、与えられた 2 つの確率変数 X と Y の結合分布の表に基づいて、 Y の条件付き期待値に関する理解を問う。 X に異なる値が与えられたとき、正確に計算することが求められる。

問 4 は、問 3 の条件付き期待値が表す経済学的解釈に関する理解を問う。問 3 の結果を活用することが求められる。

問 5 は、 X の条件付き確率に関する理解を問う。

問 6 は、2 つの確率変数 X と Y の独立関係の条件に関する理解を問う。また、例を挙げて解説することが求められる。

問題[2]

問 1 は、母集団における平均値の 95%信頼空間に関する理解を問う。また、与えられた条件のもとで、信頼空間を正確に計算することが求められる。

問 2 は、 t 検定のプロセス及び検定結果の解釈に関する理解を問う。仮説の立て方、 t 値の計算、有意水準に基づいた判定ができることが求められる。

問題[3]

問 1 は、最小二乗法の目的および最小二乗関数の特定化に関する理解を問う。

問 2 は、偏微分の意図に関する理解を問う。また、正しく偏微分することが求められる。

問 3 は、与えられた前提条件の下で、係数の推定式を成立させ、求められた証明ができるかを問う。また、問 2 の結果を活用することが求められる。

⑤経済史

問題[1]

示された用語について、経済史の視点から、指定された字数の範囲で正しく簡潔に説明できるかを問う。時期や地域を限定できるものはそれら示しつつ具体的に解答することが求められる。

問題[2]

- (1) 1914年～1925年の物価総平均と賃金指数の変化について、両者を比較しつつグラフを正確に読み取ることができているか、それを当該期の日本国内外の情勢や経済動向と結びつけながら説明できているかを問う。ここでは第一次世界大戦が日本経済に与えた影響を踏まえて解答することが求められる。
- (2) 1918年～1925年の米価指数の変化についてグラフを正確に読み取ることができているか、それを当該期の日本国内外の情勢や経済動向、および米価統制・米穀供給の政策と結びつけながら説明できているかを問う。ここでは日本政府のシベリア出兵の宣言が米騒動を惹起した点や、1921年の米穀法の内容などを解答することが求められる。